

2026年2月6日

各 位

会 社 名 株式会社ニッスイ

代表者名 代表取締役社長執行役員 田中 輝
(コード:1332 東証プライム)

問合せ先 執行役員経営企画 IR 部長 広井 洋一郎
(TEL.03-6206-7037)

本邦初となる「ブルー・ネイチャーファイナンス・フレームワーク」の策定及び 「ブルー・ネイチャーボンド」発行に関するお知らせ

当社は、国内市場において公募形式により、調達資金の全てが適格なブループロジェクトかつネイチャープロジェクトに充当されるブルー・ネイチャーボンド(第1回無担保社債)を発行(以下、本発行)する予定であり、本日2月6日(金)に本発行に向けた社債の訂正発行登録書を関東財務局長に提出しましたので、お知らせいたします。本発行は初回債であり、調達基盤の多様化が主な目的となります。調達資金の全てが適格なブループロジェクトかつネイチャープロジェクトに充当されるブルー・ネイチャーボンドの発行は本邦初(注1)となります。

(注1) 2月6日発表時点

記

1. 本発行の背景・目的

当社グループは、長期ビジョン「GOOD FOODS 2030」に基づき、さまざまな“食”的新しい可能性を追求し、「心と体を豊かにする新しい“食”」「社会課題を解決する新しい“食”」を創造する「人にも地球にもやさしい食を世界にお届けするリーディングカンパニー」となることを目指しています。このテーマの下で、当社グループが特に恩恵を受けている自然資本に対応する「海洋の生物多様性の主流化」・「脱炭素・循環型社会への貢献」や「持続可能なサプライチェーンの構築」などを加えた10項目のマテリアリティを「持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けて優先的に取り組むべき経営上の重要課題」と位置付け、持続可能な社会に向けて価値を創造するサステナビリティ経営を推進しています。

長期ビジョン達成に向けた第二段階として2025年4月に開始した中期経営計画「GOOD FOODS Recipe2」(2025年度～2027年度)では、「バリューチェーン強靭化」をテーマにマテリアリティを基点として「事業ポートフォリオ強化」「サステナビリティ経営の深化」「ガバナンス強化」の3つの基本戦略に取り組んでいます。

「サステナビリティ経営の深化」では、サステナビリティと事業戦略の連動強化を進めており、ステークホルダーの皆さまとの連携・協働のもと、事業を通じてマテリアリティに取り組み、社会課題の解決と企業価値の向上を目指しています。養殖事業においては、天然種苗に依存しない完全養殖実現に加え、選抜育種や浮沈式生け簀の導入、漁場の環境モニタリングや自動給餌システムの活用などに取り組んでいます。これらを通じて、自然災害リスクや環境負荷の低減を図り、人にも地球にもやさしい安定した養殖を実現するとともに、持続可能な水産資源の利用を通じて、海洋の生物多様性の保全・回復に貢献する取り組みを進めています。

今般、当社グループのサステナビリティ経営を資金調達面からも推進し、幅広いステークホルダーの皆様に一層認知いただすべく、本発行による調達資金は自然資本の持続可能性確保に向けた「黒瀬ぶり」・「FIVE STAR(サーモン)」の持続可能な養殖事業に係る支出に充当する予定です。水産資源の生物多様性の保全と持続的な利用の推進を通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

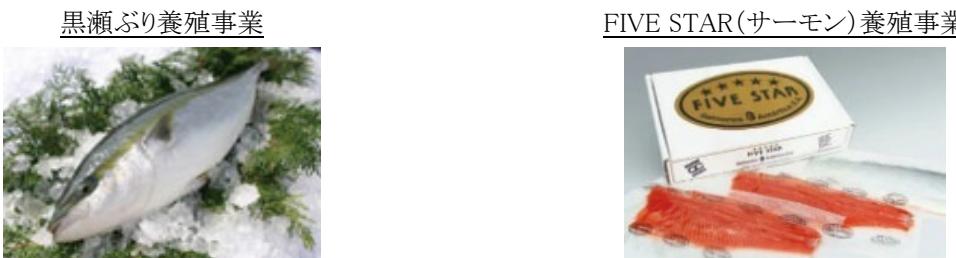
2. ブルー・ネイチャーボンドの概要

発行年限	5年(予定)
発行額	未定
条件決定日	最速2026年2月下旬(予定)
主幹事	SMBC日興証券株式会社、みずほ証券株式会社
ストラクチャリング・エージェント(注2)	SMBC日興証券株式会社

(注2) ブルー・ネイチャーファイナンス・フレームワーク策定及びセカンドオピニオン取得に関する助言等を通じて、ブルー・ネイチャーファイナンスの実行支援を行う者のこと

3. 資金使途について

本発行による調達資金は、国内のグループ会社である黒瀬水産株式会社で行う黒瀬ぶり養殖事業及びチリのグループ会社である SALMONES ANTARTICA S.A.社で行う FIVE STAR(サーモン)養殖事業に係る支出(設備投資、研究開発、運営、保守・管理、改修、出資、融資等)に充当する予定です。



2022年度に日本で初めて人工種苗100%の完全養殖を実現した「黒瀬ぶり」は、世界で初めてブリにおけるASC認証(注3)を取得しているほか、MEL認証(注4)も取得。

「FIVE STAR」は、「養殖サーモンのパイオニア」として、世界各国で、愛されているブランドです。ASC認証を取得しているほか、BAP認証(注5)についても最高ランクの「四つ星」を取得。

(注3) 水産養殖管理協議会(Aquaculture Stewardship Council)が運営している、養殖業が持続可能な方法で運営され、周辺の自然環境や地域社会への配慮が行われている「責任ある養殖水産物」であることを証明する認証制度。

(注4) 一般社団法人 マリン・エコラベル・ジャパン協議会が運営している、水産資源の持続的利用や生態系保全に資する活動を積極的に行っている生産者や、そのような生産者からの水産物を積極的に取り扱う加工・流通業者の取り組みを促進させること、漁業や養殖、加工・流通段階での水産物の取り扱いについての透明性を担保し、関係事業者や消費者の選択や信頼に寄与することを目的とした認証スキーム。

(注5) 世界水産物連盟(Global Seafood Alliance)が運営する第三者認証プログラム。養殖における孵化場・飼料工場・養殖場・加工工場の各段階において、環境配慮、社会的責任、アニマルウェルフェア、食品安全性に関する基準を満たしていることを認証する。

4. ブルー・ネイチャーファイナンス・フレームワークの策定及びセカンドオピニオンの取得

当社は本発行にあたり、国際資本市場協会(ICMA)の「グリーンボンド原則2025」及び「Sustainable Bonds for Nature: A Practitioner's Guide」、ICMA等の「A Practitioner's Guide for Bonds to Finance the Sustainable Blue Economy」、ローン・マーケット・アソシエーション(LMA)、アジア太平洋ローン・マーケット・アソシエーション(APLMA)、ローン・シンジケーション&トレーディング・アソシエーション(LSTA)の「グリーンローン原則2025」、環境省の「グリーンボンドガイドライン2024年版」及び「グリーンローンガイドライン2024年版」と適合する「ブルー・ネイチャーファイナンス・フレームワーク(注6)」を策定しており、これら原則等との適合性に対するセカンドオピニオン(注7)を株式会社格付投資情報センター(R&I)より取得しています。

(注6) ブルー・ネイチャーファイナンス・フレームワーク

https://www.nissui.co.jp/ir/download/rb_data/blue_nature_finance_framework.pdf

(注7) R&Iによるセカンドオピニオン

<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/greenfinance/index.html>